

**『当院の非小細胞肺癌症例における PD-L1 発現に関する検討』
に關係する患者様、ご家族の皆様方へ**

当院では、『当院の非小細胞肺癌症例における PD-L1 発現に関する検討』という調査、研究を行っています。近年、肺癌においては免疫チェックポイント阻害剤が使用可能となり、肺癌に対する免疫療法といった新しい治療戦略が注目されています。肺癌の病理組織を用いて免疫染色で PD-L1 発現の有無を評価し病理組織像や臨床情報との関連を調査することにより今後の診療に役立てていくことがこの研究の目的となります。

PD-L1 (Programmed cell death 1 ligand 1) とは：

癌細胞は、その細胞の表面に抗原と呼ばれるタンパク質を持っており、免疫細胞はこの抗原を見つけると、癌細胞を異物とみなして攻撃します。癌細胞は細胞表面に PD-L1 を発現しており、免疫細胞である T 細胞の PD-1 と結合して免疫細胞の攻撃を免れています。従来の抗癌剤による治療とは癌そのものを攻撃するものでしたが、PD-1 を阻害することによって免疫細胞による癌細胞への攻撃を導くのが抗 PD-1 抗体薬/抗 PD-L1 抗体薬による免疫治療です。

<調査の対象となる患者さま>

2004 年 1 月 1 日から 2018 年 03 月 31 日までの間に近畿中央胸部疾患センターで非小細胞肺癌と診断された患者様を対象といたします。

<調査方法>

具体的には、診療目的で作成されたカルテ上の診療情報、病理診断標本を用いて検討を行い、統計学的に解析を行います。

本研究により新たに検体採取や費用など何かをお願いすることはありません。

<患者さまのプライバシーに関して>

プライバシー・個人情報は厳重に守られます。お名前、生年月日など患者様を特定できる情報が外に出ることは決してありません。

*この臨床研究に関してご不明な点がある場合、もしくは研究にカルテ情報を利用することにご了解いただけない場合は以下に示す本調査の研究代表者までお問い合わせ下さい。尚、その場合においても患者さんが診療上不利益をこうむることは一切ありません。

別紙 1

〒591-8555 大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

臨床検査科・病理診断科

笠井 孝彦

TEL:072-252-3021, FAX:072-251-1372

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ近畿中央胸部疾患センター臨床試験審査委員会 (IRB) における厳重な審査・承認をうけて実施しています。

(当院ホームページに掲載)